

【5】 都城地区小学校体育連盟 研究のあゆみ

I 年間事業について

期 日	曜	会 名 等	主 な 内 容	会 場
5月16日	月	教科主任会	研究推進 教職員ミニバレーボール大会検討	西小学校
5月25日	水	第1回常任理事会	研究推進、水泳教室計画指導案検討	早水公園体育文化センター
5月31日	火	第1回理事会	研究推進、水泳教室計画指導案検討	早水公園体育文化センター
6月6日	月	第2回常任理事会	研究推進、水泳教室計画指導案検討	西小学校
6月24日	金	小中高合同体育研修		今町小学校 授業者 教諭 肥後 高史
6月25日	土	教職員ミニバレー大会		早水公園体育文化センター
7月25日	月	水泳教室 前日準備		各 会 場
7月26日	火	第65回都城市水泳教室		各 会 場
		三股町小学校水泳記録会		三股西小学校
8月2日	火	第3回常任理事会	水泳教室反省、研究推進、陸上教室計画	沖水小学校
8月24日	水	第2回理事会	水泳教室反省、研究推進、陸上教室計画	沖水小学校
10月13日	木	三股町小学校陸上記録会 前日準備		三股小学校
10月14日	金	三股町小学校陸上記録会		三股小学校
10月18日	火	第3回理事会	研究推進、陸上教室名簿・諸準備確認	早水体育文化センター
10月24日	月	陸上運動教室前日準備		都城運動公園陸上競技場
10月25日	火	第67回都城市小学校陸上運動教室		
11月8日	火	第4回常任理事会	授業研究会指導案検討	早水公園体育文化センター
11月15日	火	第4回理事会	授業研究会指導案検討	早水公園体育文化センター
11月18日	金	体育専科授業公開		沖水小学校 授業者 教諭 山本 亮
11月30日	水	都城市・三股町地区合同教育研究会	授業研究会(研究授業・授業研究会)	三股西小学校 授業者 教諭 中野 洋一
2月21日	火	第5回常任理事会	年間反省、次年度の方向性	早水公園体育文化センター
3月7日	火	第5回理事会	年間反省、次年度の方向性	早水公園体育文化センター

II 事業部のあゆみ

1 水泳教室

- (1) 大会名 第65回都城市小学校水泳教室：三股町小学校水泳記録会
- (2) 実施日 7月26日
- (3) 会場 都城市内10会場：三股西小学校
- (4) 出場者 小学校5・6年生
- (5) 実施種目 25m(自由形・平泳ぎ) 50m(自由形・平泳ぎ)、100mリレー

2 陸上教室

- (1) 大会名 第67回都城市小学校陸上教室／三股町小学校陸上記録会
- (2) 実施日 10月25日(都城市)／10月14日(三股町)
- (3) 会場 陸上競技場：三股小学校
- (4) 出場者 小学校6年生
- (5) 実施種目 100m走 50mH 持久走(男子1000m 女子800m)
走り高跳び 走り幅跳び ソフトボール投げ 400mリレー

※ 水泳教室及び陸上運動教室ともに、都城地区小学校体育連盟による競技規則を適用する。

※ 参加児童の親睦を図るために、陸上運動教室において、ジェンカを実施した。また、教室という趣旨に基づき、水泳教室では模範泳を、陸上運動教室では模範競技をそれぞれ取り入れた。

Ⅲ 研究部のあゆみ

1 研究主題及び副題

進んで運動に親しみ、楽しさを味わう体育科学習の在り方
～器械運動の学習を中心に～

2 主題設定の理由

学習指導要領では、体育科の究極の目標である「楽しく明るい生活を営む態度を育てる」ことを目指し、小学校においては、「義務教育として行われる普通教育のうち基礎的なものを施す」こと

や

「生涯にわたって運動に親しむ資質や能力の基礎を育てる」こと、中でも「運動に親しむ資質や能力の育成」と「健康の保持増進」、「体力の向上」の三つの目標が密接に関連していることが示されている。

特に「運動に親しむ資質や能力」については、運動への関心や自ら運動をする意欲、仲間と仲よく運動をすること、各種の運動の楽しさや喜びを味わえるよう自ら考えたり、工夫したりする能力、運動の技能などを指して、これらの基礎を確実に育成することが重要となる。これらの資質や能力を育成するためには、児童の能力・適性・興味・関心などに応じて、運動の楽しさや喜びを味わい、自ら考えたり、工夫したりしながら運動の課題を解決する等の学習が重要である。

都城地区では、一昨年度より、本地区の教師に対して行ったアンケート結果をもとに、「器械運動」を中心に、進んで学習に取り組み、楽しさを味わう体育科学習の在り方について研究を進めてきた。

単元構成の中に集団での演技を取り入れることで、仲間とのかかわりをもたせ、技や演技などの課題に向けて児童が互いに学び合う姿をみることができた。また、一つ一つの技ができるようになるための技能について研修を進めることで、児童に技への取り組み方を示すことができた。しかし、集団での演技の取り入れる中で、技の完成度が高められるような単元構成や指導の在り方について課題が残った。

そのため昨年度は、個々の児童に応じてつまずきを解消していくために、学習内容について教材分析を行い、発達段階に応じた指導内容を明確にしていくようにした。また、単元構成を改善し、授業中の観察と合わせて学習カードの活用について研究することもできた。さらに、教材分析の成果を運動事例集に反映していく中で、技の前後や各項目との関連を明らかにした。実践をもとに修正を加える作業をすることができ、十分な成果を残すことができたと考える。

そこで本年度は、これまでのマット運動の研究を生かしながら、跳び箱運動についての研究を進めていくようにした。跳び箱運動を苦手とする児童も、できる楽しさを味わうことができるように、主運動に関連する易しい運動を明記し、技を系統的に練習することができるような学習カードを作成する。また、指導者側が技の系統やポイントを把握し、指導に役立たせることができるように、図や説明を精選、改善した跳び箱運動用の実践事例集を作成する。

また、小体連便りを発行し、体育科学習だけでなく、昼休みにも取り組めるような運動を紹介することで、運動の日常化を図るようになっていくようにする。

これまでの研究をいかして、児童が仲間とかかわりながら主体的に学習を進め、技のポイントを理解しながら運動の楽しさを味わうことができるようにしていきたい考え、本主題を設定した。

3 研究の仮説

器械運動の学習を通して、技に関連する易しい運動を適宜取り入れるとともに、仲間とかかわりながら技の高まりを実感できるような学習過程を工夫すれば、運動の楽しさを味わい、進んで取り組むことができるであろう。

4 研究の内容

- (1) 児童が進んで運動に親しみ、楽しさを味わう体育科学習の在り方
 - 器械運動（跳び箱運動）の教材分析
 - 指導方法について
- (2) 運動の日常化や指導方法の工夫につながる情報発信の在り方

○ 小体連だより「なかま」の作成・発行

5 研究の実際

(1) 児童が進んで運動に親しみ、楽しさを味わう体育科学習の在り方

① 器械運動の指導方法について

児童に身に付けさせたい技能について整理し、授業に入る前に実態を把握すれば、その後の授業の手立てがとりやすくなると考え、昨年度までのマット運動の取組に引き続き、都城地区小体連ならではの「跳び箱運動の技の手引き」を地区内の小学校に配付した。分析表には、助走～踏み切り→着手→着地と技を細かく区切り、児童にかけたい言葉や、評価のポイントを示している。

ア 技の評価について

学習指導要領の指導内容を確認し、示すようにした。

イ 技の系統について

児童が自分の能力にあった技に取り組むために、それぞれの技を切り返し系や回転系に分けて、系統を示した。教材分析をもとに説明を加えていった。

② 単元計画の工夫

児童が仲間とかかわりながら技に取り組むことで楽しさを感じたり、技ができるようになる喜びを味わったりできるような単元計画の作成を行った。

発達段階に応じて単元計画を作成し、技の系統表を作って内容を確認した。学習内容の目標をとらえ、それに必要な場を設定し、場の工夫をした。準備、片付けも含めて授業とし、少ない時間でできるように工夫することで運動量を確保するようにした。

単元計画 (高学年部の例)

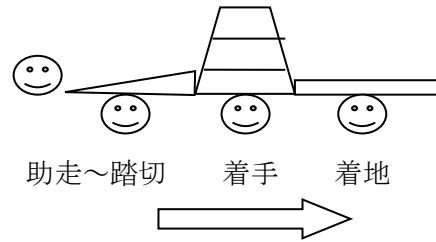
オリエンテーション	ステージ1	ステージ2	発表会
準備運動・学習課題の確認・わくわく体育6つのOK			
学習の進め方	1 学習の流れを知る。 2 準備運動を行う。 (肩・手足・腰・膝・足首をほぐす) 3 感覚作りの運動を行う。 ○ 動物歩き、平均台跳びなどコーナーを設けサーキット運動を行う。 ○ 場の設定の例 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 5px auto;"> ・馬跳び ・うさぎ跳び ・舞台からの跳び下り運動 ・平均台 ・動物歩き ・舞台への跳び乗り運動 </div>		技の発表会
準備運動の仕方			
感覚作りの運動			
場の準備	4 基本的な技に取り組む ○ 切り返し系の技に取り組む。 ・ 開脚跳び ・ 安定した開脚跳び ○ 基本的な回転系の技に取り組む ・ 台上前転 ・ 安定した台上前転	4 課題別学習に取り組む ○ 開脚跳び ○ 安定した開脚跳び ○ 大きな開脚跳び ○ かかえ込み跳び ○ 台上前転 ○ 安定した台上前転 ○ 大きな台上前転	
課題設定 (個人技能の確認)			
グループ編制	整理運動・振り返り・次時の学習内容の確認		

③ 1 単位時間の指導の在り方

効率よく技の完成後を高めるために、初めて取り組む技や確認については一斉で指導を行う。

その後は児童同士で学び合うことができるように、グループで学習を進める。互いに技を3カ所からチェックし、アドバイスができるようにした。

準備、片付けも含めて授業とし、少ない時間でできるように工夫することで運動量を確保した。



(2) オリエンテーションの在り方

学年の段階に応じて今できる技とまだできない技を確認し、技の発表会の内容を検討する。

技の映像や学習カードなどをもとに一つ一つの技の雄大さや美しさを確認し、単元計画表で学習の進め方について知らせる。

わくわく体育6つのOKをもとに学習規律の確立を目指して、授業中に片付けも行うことを説明し、安全面やルールについて確認する。

① 器械運動の技の紹介

器械運動では、技を身に付けたり、新しい技に挑戦したりする時に楽しさを味わうことができることを知らせる。既習内容については、今までより雄大で美しい動きができるようになる楽しさや喜びを感じられるようにする。児童同士で技を見せ合い、互いによいところを認め合うことで技の出来ばえを高めることができることを伝える。

これらを通して、学習の雰囲気、明るく肯定的になるようにする。

技は、分解図をもとに3つの段階に分けて説明する。模範がなくても児童の姿をもとにどこがどうなればいいのかを説明していくとよい。(例 助走～踏切、着手、着地)

② 単元計画の説明

学習の流れを説明し、場の作り方、安全面について確認する。

ア 学習の流れ

1 単位時間における活動内容の確認をする。準備運動、本時の内容の確認、場の確認、活動、振り返りについておさえる。

イ 単元全体の流れ

単元の終わりに発表会を設け、それに向かって技を習得することを目標にすることを確認する。

ウ 児童の実態把握

既習の技について動画としてビデオなどに撮っておく。3つの段階のどこでつまずきがあるかを把握することで、練習する場を決めることができる。

(3) 運動の日常化や指導方法の工夫につながる情報発信の在り方

○ 小体連だより「なかま」の作成・発行

水泳大会・陸上教室の結果報告や、昼休みや放課後、家庭でも取り組めるような運動を紹介した。

6 研究の成果と課題

(1) 成果

技の分解図を使って教材分析を行い、児童が使える資料を作成することで、児童が主体的に運動に取り組み、技の完成度が高めることができた。

(2) 課題

技の構造的特性や機能的な特性について研究を進め、1つ1つの技の指導内容について精選していく必要がある。